

# 平成 18 (2006)年度事業報告

(平成 19 年 5 月 30 日評議員会同意、理事会議決)

## I. 財団法人の記録

### 1. 役員等の異動

- (1) 就任 評議員 24 名 (平成 18 年 4 月 10 日)  
理事 19 名、監事 2 名 (平成 18 年 5 月 29 日)
- (2) 選任 理事長 田畑貞寿 (平成 18 年 5 月 29 日)  
専務理事 大澤雅彦 (平成 18 年 5 月 29 日)
- (3) 委嘱 顧問 5 名 (平成 18 年 5 月 31 日)  
参与 10 名 (平成 18 年 8 月 1 日)

### 2. 会員数 (平成 19 年 3 月 31 日現在、カッコ内は昨年度比)

- (1) 普通会员
- |         |          |                     |
|---------|----------|---------------------|
| 個人会員    | 13,156 人 | (-108 人)            |
| ファミリー会員 | 3,192 人  | (+60 人) ※1 家族 3 人計算 |
| ユース会員   | 239 人    | (-20 人)             |
- (2) 団体会員 688 口 / 337 団体 (-89 口 / -30 団体)
- (3) 賛助会員 85 口 / 39 法人 (+5 口 / +5 法人)
- (4) 寄付サポーター 863 人 (-71 人)
- (5) アクションサポーター 6,100 人 (+1,077 人)
- 合計 24,323 人・口 (+854 人・口)

### 3. 会議

#### (1) 理事会

- ・ 5 月 29 日 定例理事会 / (議決) 役職理事の選出、平成 17 年度事業報告・決算
- ・ 7 月 25 日 臨時理事会 / (議決) 参与の委嘱
- ・ 9 月 7 日 書面表決 / (了承) 人事労務諸規程の改定、常勤理事報酬計算基準の策定方法
- ・ 3 月 8 日 臨時理事会 / (議決) 平成 18 年度補正予算、常勤常務理事勤務規則の改定
- ・ 3 月 27 日 定例理事会 / (議決) 平成 19 年度事業計画・予算

#### (2) 評議員会

- ・ 4 月 28 日 定例評議員会 / (議決) 理事・監事の選任、(同意) 平成 17 年度事業報告・決算(案)
- ・ 6 月 16 日 書面表決 / (議決) 監事の選任
- ・ 2 月 21 日 書面表決 / (同意) 平成 18 年度補正予算(案)
- ・ 3 月 15 日 定例評議員会 / (同意) 平成 19 年度事業計画・予算(案)

### (3) 委員会

- ・保護研究専門委員会（5/8、6/30、9/8、12/8）
- ・普及広報専門委員会（7/3、8/31、9/19、10/24）
- ・AKAYA プロジェクト調整会議（6/29、1/26）
- ・AKAYA プロジェクト企画運営会議（8/25、3/5）
- ・辺野古・大浦湾調査検討委員会（8/27）
- ・IUCN 日本委員会運営委員会（5/19、9/15、2/16、3/14）
- ・ふれあい調査委員会（8/18、2/19）
- ・SISPA 研究会（4/28、3/1）
- ・プロ・ナトゥーラ・ファンド助成運営・選考委員会（4/10、8/11、9/14）
- ・自然観察指導員養成講師会議（2/24-25）
- ・日本自然保護協会沼田眞賞運営・選考委員会（5/15、3/2）

## 4. 意見書等の公表

### (1) 意見書・要望書等

各事業で取り組んでいる問題に対し、6件の意見・要望等を提出した（10頁・別表1）。

### (2) 声明・パブリックコメント等

各事業で取り組んでいるテーマに対し、6件の声明・パブリックコメント等を提出した（10頁・別表2）。

## 5. 委員の派遣

各事業で取り組んでいる問題・テーマに関わる16件の委員会等に役職員を派遣し、施策の転換や事業の見直しの検討に参画した（10頁・別表3）。

## 6. 印刷物の発行

### (1) 会報『自然保護』

年6回／奇数月発行（第491号～第496号）、44頁／各号約18,000部

### (2) 報告書・資料集等

- ・報告書95号『埋立事業が泡瀬干潟に与える影響と保全の提言－泡瀬干潟自然環境調査報告書』（2月、200部）
- ・資料集46号『ジャングサウォッチハンドブック』（6月、500部）
- ・『平成16年度至仏山環境共生推進計画調査事業報告書』（3月、群馬県と共同、200部）

### (3) パンフレット等

- ・個人会員入会案内パンフレット（80,000部）
- ・NACS-J自然保護寄付パンフレット（2種・計50,000部）
- ・「NACS-J自然しらべ2006～バッタ」調査シート（25,000部）
- ・「NACS-J自然しらべ2006～バッタ」結果レポート（18,000部）

## II. 事業報告書

「平成 18 年度事業・予算の基本的な考え方」に沿って、以下の業務を実施した。

### 1. 総合プロジェクト

#### (1) AKAYA プロジェクト

林野庁関東森林管理局と締結した『『三国山地／赤谷川・生物多様性復元計画』推進のための協定書』（平成 16 年 3 月 30 日～平成 23 年 3 月 31 日）に沿い、生物多様性保全と持続的な地域社会づくりの実践モデル構築のため、各プログラムを実施した。

##### ① 自主活動

- ・環境教育プログラム体系の構築

ワーキンググループを設置し、「環境教育計画」の策定に着手した。

- ・旧三国街道フットパス計画

地域協議会と協働し、旧三国街道のフットパス網としての活用への情報収集を進め、資金助成申請を行った。

- ・活動拠点の整備・活動運営

旧営林署の苗畑跡地「いきもの村」を、プロジェクトサポーターの共同研修地や地域住民・近隣施設利用者等への環境教育拠点として整備を進めるとともに、月例の環境管理・調査研究実習「赤谷の日」（11 回）を開催した。

- ・総合事務局の運営

「企画運営会議」「調整会議」等の意思決定会合の運営、生物多様性復元研究に関わる 6 つのワーキンググループの運営・参画を通じて、関係団体の協働による事業進行の枠組み構築を進展させた。

また、講演・研修・現地視察・各種取材・催事協力等への対応や専用 web サイトの運営等を通じ、モデルプロジェクトとしての事例提供・周知、参画主体の開拓を図った。

##### ② 受託研究

- ・「赤谷の森」生物多様性復元研究事業に関する定型業務（赤谷・自然再生推進モデル事業／林野庁関東森林管理局委託）

「自然環境モニタリング基本方針」に則り、植生・大型猛禽類・小型ほ乳類等のモニタリング調査を行うとともに、自然林修復試験地（2 ヲ所）を設定してモニタリングを開始した。

また、溪流環境の修復への取り組みにも着手し、プロジェクトエリア内の茂倉沢にある治山ダムの一部を撤去する方針を決定した。

- ・緑の回廊の保全事業に関する定型業務（赤谷・緑の回廊モニタリング調査／林野庁関東森林管理局委託）

「緑の回廊モニタリング委員会」を運営し、回廊エリアの長期モニタリング手法を策定、調査を実施した。

#### (2) 尾瀬プロジェクト

- ・至仏山保全管理施策の提言

群馬県とともに、「至仏山環境共生推進計画調査事業」の結果を報告書にとりまとめ、至仏山の生態系の特性・配置と荒廃との関係を明らかにするとともに、保全管理対策の方向性を示した「至仏山保全基本計画」を提案し、地権者・地元利害関係者等を含む至仏山緊急対策会議において基本合意を得た。

- ・ 国立公園・公園計画改定への参画

会津地域の保護林拡大、尾瀬国立公園としての独立、会津駒ヶ岳への国立公園拡大、「尾瀬ビジョン」の作成に対してトータルな提案・関与を行い、地域社会・関係有権団体・自然団体・山岳団体・関心メディア等とのコミュニケーションを拡大しつつ、いずれの目標も達成した。

### (3) 小笠原プロジェクト

#### ① 自主活動

関係団体・地域 NGO・ガイド業従事者等とのコミュニケーションを拡大しつつ、小笠原諸島全域の国有林を対象とした保護林の拡大を働きかけ、目標を達成した。

また、保護林設定後の自然保護・修復事業を計画的に進めるための保全管理委員会（常設）の設置を提案し、基本合意された。

#### ② 受託研究

- ・ 小笠原諸島森林生態系保護地域設定事業（林野庁関東森林管理局委託）

「小笠原諸島森林生態系保護地域設定委員会」の検討に必要な情報を収集、調査を実施し、資料をとりまとめた。

## 2. 保護研究事業

### (1) 保護研究事業の方向性の検討

役員等からなる保護研究専門委員会を設け、先見性と実効性のある自然保護活動を展開するための、保護研究事業の中長期的テーマの選択および戦略の策定、事業実施体制のあり方について検討し、提言をまとめた。

### (2) 保護系プログラム

#### ① 干潟・藻場生態系保全

- ・ 沖縄島における海草藻場保全（自然保護助成基金助成）

沖縄島内の海草藻場に関わる資料・情報等の収集と現地補足調査を行い、現況把握・解析作業を進めた。

- ・ 沖縄島北部東海岸（辺野古・嘉陽地域）海草藻場保全（自然保護助成基金助成）

5年目を迎えた、市民参加による海草藻場モニタリング調査「ジャングサウオッチ」の調査員拡大・養成に努めるとともに、調査報告書の作成準備を進めた。

大浦湾等の現地調査を行い、米軍普天間飛行場代替施設建設事業の見直しと海草藻場・サンゴ礁生態系の保全を求める要請活動を続けた。

- ・ 沖縄島泡瀬干潟保全

専門家・地域グループと協働し、2年間実施してきた現況把握調査の結果を報告書にとりまとめ、干潟を生かしたまちづくりプランと環境保全策を提言するとともに、委員

会参画等を通じて埋立事業の見直しを求めた。

## ② 野生生物保護

- ・野生生物保護基本法の制定と関係法制度の改正の提案

市民提案による野生生物保護基本法の制定や、鳥獣保護法等の関係法案の改定に向けて、「野生生物保護基本法制定をめざす全国ネットワーク」加盟団体とともにロビーイング活動を続けた。

- ・「第3次生物多様性国家戦略」策定に対する対応

会員からの現地情報や国際動向等をもとに、検討会等の場で課題を提言し、各地の自然保護問題の解決につながる実効性ある国家戦略づくりを働きかけた。

- ・外来種対策

カエルツボカビ症の国内侵入が判明したのに伴い、関係団体とともに緊急事態宣言に連名し、会報やホームページを通じて注意喚起と対策の普及を図った。

## ③ 河川生態系保全

北海道天塩川流域のサンルダム計画について、現地視察や地元研究者からの情報収集等をもとに、関係機関に対し、計画の見直しを求める意見を提出した。

長良川について、河口堰運用後10年の環境変化と、それらが地域の自然・社会に及ぼした影響を明らかにするため、研究者グループによる検討作業に参加し、検討結果に基づく提言の作成準備を進めた。

## ④ その他国内保護

地域 NGO からの要請にもとづく現地視察、政府機関等の施策検討会への参画、取材対応・催事協力等により、自然保護施策の実行に向けての働きかけや、各地の保護問題の状況把握および情宣・交渉活動を行った（10～12頁・別表1、2、3、4）。

行政研修・大学講義等への役職員の派遣（環境省、林野庁、国土交通省、水資源機構、東京情報大学他）、修学旅行による中高生の訪問学習の受け入れ等、各方面へ自然保護の解説を行った。

## ⑤ 情報整理・活用

図書等各種資料の登録・分類・整理を行い、「自然保護ライブラリー」のデータベースおよび検索システムの整備を進めた。

## ⑥ 国際

- ・IUCN 日本委員会の運営

IUCN（国際自然保護連合）の国内会員23団体からなるIUCN日本委員会の事務局として、会議・ホームページ等の運営、レッドリストの普及冊子の製作、寄付支援の呼びかけ等を行った。

また、「第3次生物多様性国家戦略」の策定に対し、国際シンポジウム「生物多様性条約～世界と日本を結ぶ国家戦略をめざして」（1/27、NACS-J 他共催、東京・JICA 国際協力総合研修所、約200名参加）の開催や勉強会等を通じて、国家戦略の重要性を訴え、関心を高めるとともに、関係 NGO との協力関係を築いた。

- ・国際生物多様性情報収集（環境省請負）

「世界保護地域委員会東アジア部会」「保護地域の管理・運営に関する国際ワークショップ」（10/23-27、韓国・済州島）への出席、IUCN 本部・IUCN ヨーロッパオフィス・

IUCN 環境法センター・欧州環境庁の訪問等により、生物多様性保全に関する国際情報を収集した。

- ・国連国際生物多様性年国内推進方策検討（環境省請負）

各国の生物多様性国家戦略と、国家戦略の普及広報活動に関する情報を収集した。

### (3) 研究系プログラム

#### ① 植物群落 RDB モニタリング

- ・市民参加の海岸植物群落調査

調査研修会の開催等を通じ、1,000 人以上の会員・自然観察指導員の参加を得て、3 年半にわたる全国調査を終えた。調査結果をとりまとめ（36 都道府県 1,251 件）、砂浜の生物多様性危機の実態を明らかにして、専用 web サイトで公表した。

東北地方で見られた外来種・オオハマガヤの植栽について、関係機関に対し、実態調査の実施と植栽の中止を申し入れた。

#### ② 里やま保全研究

- ・生態系総合モニタリング調査

専用 web サイトの作成や、「身近な自然を見つめる目 調査学習会」（3/7-8、福井県中池見湿地、約 30 名参加）の開催等を通じて、市民による身近な地域の自然のモニタリング手法の普及を図った。

- ・モニタリングサイト 1000 里地調査（重要生態系監視地域モニタリング推進事業／環境省生物多様性センター請負）

昨年度作成した調査マニュアルをもとに、6 ヶ所のコアサイト（北海道夕張郡ハサンベツ里山計画地、山形県鶴岡市天狗森、茨城県土浦市宍塚の里山、福井県敦賀市中池見湿地、大阪府枚方市穂谷の里山、大分県竹田市久住草原）で調査を実施するとともに、準コアサイトの候補地について検討を行った。

#### ③ ふれあい研究

- ・市民参加の「人と自然とのかかわり調査」手法の研究（三井物産環境基金助成）

地域調査事例の分析と試行調査をもとに、市民参加のふれあい調査の手法および GIS を活用した調査システムを検討した。また、ふれあい調査に関する学習会を開催した。

- ・環境影響評価技術手法・人と自然との触れ合い関連調査（環境省請負）

人と自然との触れ合いを客観的・定量的に把握するための「ふれあいマップ調査手法」を確立し、調査手法の普及・活用方策について検討を行った。

#### ④ 生態系管理手法研究

- ・屋久島世界遺産地域における生態系の動態把握と保全管理手法に関する調査（環境省九州地方環境事務所委託）

屋久島の世界遺産地域において、気象観測、植生、動物（ヤクシカ・哺乳類相・昆虫類相）、地形・地質に関する調査を実施した。

- ・綾川上流照葉樹林森林環境調査（日本森林技術協会発注）

林野庁九州森林管理局他と締結した「綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画推進協定書」（平成 17 年 5 月 28 日～平成 25 年 3 月 31 日）に沿い、宮崎県綾川上流域において、照葉樹二次林の原生照葉樹林化にかかる基礎調査と、人工林の照葉樹林化にかかる復元施

業動態調査を実施した。

- ・小笠原国立公園南島自然環境モニタリング調査（東京都小笠原支庁委託）

小笠原諸島南島において、利用経路周辺地域の植生変化や土壌浸食状況、島全体の植生や観光客等の利用状況についてモニタリング調査を行った。

- ・小笠原国立公園南島植生回復調査（東京都小笠原支庁委託）

小笠原諸島南島において、固有植物および移入植物の開花状況と訪花昆虫について調査を行った。

#### ⑤ SISPA・戦略的保全地域情報システム（自然保護助成基金助成）

自然環境・保護地域・開発案件等に関する各種データを蓄積し、運営体制を整える等、システムの骨格を構築した。

#### ⑥ 研究・活動支援

- ・プロ・ナトゥーラ・ファンド助成（(財)自然保護助成基金との共同事業）

平成18年度（第17期）助成の募集・審査を行い、26件の国内外の研究・活動グループに計2,535万円の資金支援を行った（12頁・別表5）。

平成16年度（第15期）助成の成果報告書を作成し、平成17年度（第16期）助成の成果報告会を開催（12/9、東京四谷・主婦会館、約120名参加）するとともに、専用webサイトをリニューアルし、機能の向上を図った。

### 3. 普及広報事業

#### (1) 普及広報事業の方向性の検討

役員等からなる普及広報専門委員会を設け、日本の生物多様性を高め、自然と社会の持続性を次世代のために確保するための、普及広報事業の優先課題の整理および短・中期的な事業計画の策定について検討し、提言をまとめた。

#### (2) 広報系プログラム

##### ① 会報『自然保護』の発行

年6回（第491号～第496号）、各約18,000部を編集・製作した。カラー頁を4頁増やし、記事全体の構成や写真・図版を充実させたことにより、会員からの反響が高まり、誌面を通じた会員間の交流が活発化した。

[各号特集]

- ・穴から読み解く動物の暮らし（第491号、5/6月号）
- ・風力発電事業を考える（第492号、7/8月号）
- ・外来種問題 対策の実効性をあげよう！（第493号、9/10月号）
- ・写真を活かして自然を守ろう（第494号、11/12月号）
- ・日本の「冬」を観察する（第495号、1/2月号）
- ・面白い環境教育の場をつくる（第496号、3/4月号）

##### ② NACS-J ホームページの運営

広報ツールとして基盤を整理、全体構造を見直し、アクセシビリティの向上、セキュリティの強化、特定業務サイトの内部サイト化、ブログシステムの導入等を行った。（全ページアクセス年間計1,504,385PV／日平均4,196PV／トップページアクセス日平均592PV）。

### (3) 環境教育系プログラム

#### ① NACS-J 自然観察指導員の養成

##### ・NACS-J 自然観察指導員講習会

地元団体・自治体・学校・企業との共催により、15回の講習会を開催した（13頁・別表6、今年度登録者791名、初回以降総登録者22,820名）。

「講師会議」や講師候補者への研修・OJTを通じて、講師のスキルアップ・レベル統一と講義の効率化・内容充実を図った。

##### ・自然観察指導員活動のフォローアップ

地元団体との共催および当協会主催により、7回の研修会を開催した（13頁・別表7）。

また、各地指導員連絡会主催の総会等への出席、研修会への講師派遣、メールマガジン「しどういん徒然草」の配信等を通じて、指導員活動のフォローアップを行った。

#### ② 環境教育一般

##### ・「自然しらべ2006 バッタ」

地域での自然観察の機会を提供するため、学生インターンによる作業協力等を得て、バッタをテーマに実施した（通算11回目、協賛：㈱サニクリーン・第一製薬㈱、学術協力：内田正吉、GISシステム制作協力：㈱ネイチャースケープ、無料広告スペース提供：14誌、期間：7/1～8/31、参加人数：のべ3,322名、観察地点：のべ902地点）。

##### ・外部事業への参加・協力

「能登を巡る環境プロジェクト」（5/31～6/1、国立能登青少年交流の家）、「環境教育関東ミーティング」（2/10～12、国立赤城青少年交流の家）の企画・実施に協力したほか、催事パネラー・総合学習講師・観察会リーダー・原稿執筆・取材等への役職員派遣や人材紹介、後援等の協力を行った（11頁・別表4）。

### (4) 個人会員拡大系プログラム

#### ① 入会機会となる参加型プログラムの開催

##### ・「リアルネイチャー・セミナー」の開催

学生向け「君に伝えたい自然を守る仕事のこと」、企業人向け「生物多様性保全がCSRの高評価をもたらす、『CO2削減』の次は『生物多様性』」、母親向け「Mom's Lupe（ママズ・ルーペ）」を開催し、入会を呼びかけた。（14頁・別表8-1,2,3）。

また、学生セミナーの参加者に対し、ボランティア機会の提供等を行い、会員継続の促進を図った。

##### ・「AKAYA リアルネイチャー・キャンプ」の開催

企業との共催および当協会主催により AKAYA プロジェクトエリア内で開催し、長年の保護活動によって守られた自然の現場体験機会の提供を通じ、入会を呼びかけた。（15頁・別表8-4）

#### ② 印刷物等の活用

##### ・会員への入会パンフレット配布の協力依頼

会員・自然観察指導員を中心に、活動シーンごとにターゲットを分けて、入会案内パンフレットの配布協力を呼びかけた（協力者613名）。また、メーリングリストの配信やホームページでのコーナー設営等により、協力者のモチベーション維持を図った。

- ・パンフレットの配布等による入会勧誘

各種施設へのパンフレット設置協力依頼（743ヶ所）、退会者への再入会案内 DM の送付、「自然しらべ」の参加者・問合者等への入会案内 DM の送付、外部事業への参加協力、講演・取材等への対応、携帯サイトの運営等を通じて入会を呼びかけるとともに、会員向けのメールマガジンの配信等により、会員継続率の向上を図った。

- ・各種事業の PR 機会を活用した会員募集告知

雑誌等に無料広告スペースの提供を働きかけ、「自然しらべ」の告知機会等を活用して、会員募集メッセージを掲載するとともに、有効なメディアを開拓した。

#### 4. 会員管理・サービス事業

##### ① 会員管理

- ・会員数の維持・拡大

個人会員の会費自動引落の利用促進や賛助会員企業への訪問等により、会員登録の継続を呼びかけ、個人会員数の維持と賛助会員数の拡大を図った。団体会員は、市町村合併等に伴い、依然として地方自治体を中心に会員数の減少傾向が続いている。

- ・一般寄付の拡大

個人からの募金寄付や遺贈、企業からの商品販売・催事等を通じた寄付キャンペーン企画の受け入れ等により、一般寄付の拡大を図った。

##### ② 会員サービス

主催催事での直接販売や合資会社 狼森(おいのもり)への委託による通信販売を通じて、オリジナル刊行物や会報『自然保護』バックナンバーを頒布した。

自然に関係する書籍の注文等、賛助会員企業による会員宛 DM の送付を 2 件受け付けた。

#### 5. 顕彰・基盤整備事業

##### ① 顕彰

日本自然保護協会沼田眞賞の推薦募集・選考を行い、第 6 回授賞者を宇野木早苗氏（沿岸海域生態系保全への海洋物理学からの貢献）および小笠原野生生物研究会（小笠原諸島の野生生物の保全・再生への貢献）に決定し、授賞式および記念講演会を開催した（10/29、於：東京大学山上会館、約 70 名参加）。

##### ② 基盤整備

- ・労務・人事諸規程の改定

契約職員から一般職員への登用制度、管理職制度、常勤理事報酬算出基準を定め、管理職研修を実施した。また、新管理職制度を踏まえ、事務局内組織の見直しを行った。

- ・個人情報・業務データ管理体制の整備

個人情報の取得に関わる対応体制を整えるとともに、業務関連電子データのセキュリティ・バックアップ体制の整備に着手した。

- ・公益法人会計基準の改訂への対応

新会計基準の導入を進め、科目体系・データ管理システム・計算書類を改訂した。

以上

**別表 1. 意見書・要望書等の提出**（協会代表者名で提出、カッコ内は提出日・提出先）

- ・「沖縄県北部訓練場ヘリコプター着陸帯移設事業（仮称）に対する意見（4/7、防衛庁長官・防衛施設庁長官・農林水産大臣・林野庁長官・環境大臣）
- ・北海道・天塩川水系における「サンルダム計画」に対する意見書（5/30、国土交通大臣・北海道開発局長・環境大臣・水産庁長官）
- ・徳島・吉野川河口干潟における「四国横断自動車道（徳島 JCT～小松島 IC）」計画に対する意見書（6/5、国土交通大臣）
- ・治山事業における外来種オオハマガヤ植栽の中止について（要望）（8/24、東北森林管理局長・青森県農林水産部長・石川県農林水産部長）
- ・対象狩猟鳥獣の捕獲等の禁止又は制限を定めることに係る意見書（11/14、環境大臣）
- ・普天間飛行場代替施設建設事業に係る「V字形滑走路案」に対する意見書（1/29、沖縄県知事）

**別表 2. 声明・パブリックコメント等の提出**（主に業務担当者名で提出、カッコ内は提出日・提出先）

- ・鳥獣保護管理基本指針案に関する意見（11/17、環境省自然環境局野生生物課）
- ・有明海・八代海総合調査評価委員会報告案に対する意見（12/15、環境省水・大気環境局水環境閉鎖性海域対策室内 有明海・八代海総合調査委員会事務局）
- ・カエルツボカビ症侵入緊急事態宣言（1/13、爬虫類と両生類の臨床と病理のための研究会・日本野生動物医学会など15団体・学会等と共同）
- ・戦略的環境アセスメントの法制化に向けたNGO共同声明（2/26、環境省・国土交通省・経済産業省・農林水産省・防衛省・厚生労働省、世界自然保護基金ジャパン・日本野鳥の会・FoE Japan・オーフス・ネット・里地ネットワーク・気候ネットワーク・日本生態系協会と共同）
- ・戦略的環境アセスメント（SEA）導入ガイドライン（案）に対する意見（3/15、環境省総合環境政策局環境影響評価課）
- ・戦略的環境アセスメント総合研究会の報告書取りまとめに対する環境NGO緊急コメント（3/28、世界自然保護基金ジャパン・FoE Japan・オーフス・ネット・気候ネットワークと共同）

**別表 3. 委員の派遣**（カッコ内は要請主体）

- ・国立公園指定動物保護対策検討会（環境省、継続）
- ・風力発電施設と自然環境保全に関する研究会（環境省・資源エネルギー庁）
- ・生物多様性検討委員会（林野庁北海道森林管理局）
- ・希少野生生物の保護と森林施業等との調整に関する検討委員会（林野庁関東森林管理局、継続）
- ・日光那須・緑の回廊設定検討委員会（林野庁関東森林管理局、継続）
- ・小笠原諸島森林生態系保護地域設定委員会（林野庁関東森林管理局）
- ・沖縄本島北部国有林の取り扱いに関する検討委員会（林野庁九州森林管理局、継続）
- ・中城港湾泡瀬地区環境監視委員会（内閣府沖縄総合事務局、継続）
- ・尾瀬の保護と利用のあり方検討会（環境省・尾瀬保護財団）
- ・日光国立公園尾瀬地域・至仏山緊急保全対策会議（尾瀬保護財団、継続）
- ・日光国立公園尾瀬地域利用適正化手法検討会議（尾瀬保護財団、継続）

- ・アカガシラカラスバト保護増殖事業検討会（東京都、継続）
- ・小笠原国立公園植生回復事業検討会（東京都、継続）
- ・小笠原兄島ノヤギ排除検討委員会（東京都、継続）
- ・千葉県特定外来生物（アライグマ）対策検討会（千葉県）
- ・八ヶ岳高原海の口自然郷植生管理検討委員会（㈱八ヶ岳高原ロッジ、継続）

**別表4. 催事等への後援・協力・職員派遣等**（カッコ内は主催者・開催日）

- ・干潟を守る日 2006（日本湿地ネットワーク、4/1－5/31）
- ・親子ふれあい自然塾（愛知県自然観察指導員連絡協議会名古屋支部、4/21－9/15）
- ・東京バードフェスティバル 2006（同実行委員会、5/13－14）
- ・ネイチャーエクスペリアリング in 上野森林公園（自然観察指導員三重連絡会、5/20）
- ・SAVE21 東京湾・海の公園グランプリ（SAVE21 実行委員会、5/20－2/17）
- ・KiNOA 定例会（KiNOA、5/26－3/2）
- ・彩の国環境地図作品展（同実行委員会、6/1－3/30）
- ・第15回地球環境映像祭（アース・ビジョン組織委員会、6/1－3/30）
- ・第23回自然は友だち わたしの自然観察路コンクール（国立公園協会、6/1－11/30）
- ・ふるさと親子自然観察会（愛知県自然観察指導員連絡協議会名古屋支部、6/11）
- ・講演会「日本とアジアの森を結ぶヤイロチョウ」・国際交流ヤイロチョウシンポジウム（生態系トラスト協会、6/16－17）
- ・きんき環境館 ミニセミナー「地域からはじまる自然保護」（自然観察指導員大阪連絡会、6/22）
- ・中・四国環境教育ミーティング 2006（中・四国環境教育ネットワーク、6/24）
- ・シンポジウム「自然エネルギーと私たちの未来～伊那谷にふさわしい新エネルギーを探る」（6・25 シンポジウム実行委員会、6/25）
- ・第9回（2007年）「日本水大賞」（日本河川協会）
- ・高知県希少野生動植物保護条例施行記念特別展「滅びゆく野生生物展」（高知県立牧野植物園、7/1－17）
- ・「三番瀬ふるさと いのちのいずみ」コンサート（自然と文化研究会 the かもめ・平和を願う音楽家の会、7/15）
- ・三番瀬をラムサールに 2006（三番瀬を守る署名ネットワーク、7/17）
- ・平成18年度夏休み子供自然観察教室（利根沼田自然を愛する会・沼田市教育委員会、7/23）
- ・第9回有明海・不知火海フォーラム in しまばら（同実行委員会、7/29）
- ・第5回ヒメボタルサミット in 愛知（同実行委員会、8/19）
- ・三番瀬フェスタ 2006「三番瀬フェスタ市川塩浜（感じよう！三番瀬）」（同実行委員会、8/19）
- ・第7回ライチョウ会議静岡大会（同実行委員会、8/26－27）
- ・第6回日本自然保護会議（立山自然保護ネットワーク、9/23－24）
- ・第17回 2006年国際クマ会議（同実行委員会、10/2－6）
- ・シンポジウム「経済・社会の発展と生態系への影響～自然との調和とミレニアム生態系評価」（国立環境研究所・横浜国立大学、10/23）
- ・風力発電施設が鳥類に与える影響に関する国際シンポジウム（日本野鳥の会、11/4）

- ・せたがやトラストウィーク 2006 (せたがやトラストまちづくり、11/8-12)
- ・第 19 回日本の森と自然を守る全国集会 (日本の森と自然を守る全国連絡会、12/2-4)
- ・シンポジウム「生き物の目から見た渡良瀬遊水地の現状と未来」(日本野鳥の会 栃木県支部、12/9)
- ・自然かんさつ会「多摩川河口干潟の冬鳥を見よう！」(NACS-J 自然観察指導員東京連絡会、12/17)
- ・海上の森シンポジウム「里の暮らしの原点を探る」(海上の森の会・愛知県、12/23)
- ・千葉の干潟展 (千葉まちづくりサポートセンター、1/27-2/18)
- ・環境教育関東ミーティング (国立青少年教育振興機構・国立赤城青少年交流の家・同実行委員会、2/10-12)
- ・国際湿地シンポジウム in 吉野川 (日本湿地ネットワーク、2/24-25)
- ・2007 九州環境教育ミーティング in 福岡 (同実行委員会、3/3-4)
- ・シンポジウム「坊ガツルの明日を見つめて～インパクト&カウンタープラン」(おおいた生物多様性保全センター、3/10) / 計 39 件

別表 5. プロ・ナトゥーラ・ファンド 第 17 期助成先

(万円)

テーマ/国内グループ名・海外申請者名	助成額
<b>(1) 国内研究助成</b>	
島根県大橋川の汽水環境の保全に関する研究 (継続) / 大橋川の汽水環境を調べる会	100
風力発電事業における希少猛禽類の影響調査 / 猛禽類医学研究所 (IRB-J) 風力発電調査チーム	90
水田の圃場整備に伴うメダカの地域的絶滅回避に関する保全生物学的研究 / 岩手大学農村生態系再生研究会	98
地域に根ざしたケラマジカの持続的保全～島の子ども達とともに (継続) / ケラマジカリサーチグループ	56
北海道に生息する希少サケ科魚類イトウの遺伝的構造と絶滅リスク評価 / イトウ生態保全研究ネットワーク	109
個体識別データベースを活用したゼニガタアザラシの生活史に関する研究 / ゼニガタアザラシ個体識別研究グループ	98
四国地域におけるチメドリ科外来鳥類の定着実態の解明 / 四国外来鳥類研究会	75
琵琶湖南湖における重要産業種ニゴロブナの生態情報の取得 / 琵琶湖漁業を考える会	95
阿寒国立公園の植生に及ぼすエゾシカの影響と生態系管理に関する研究 / 阿寒エゾシカ調査会	85
宮崎県綾町における市民参加による照葉樹林と針葉樹人工林の沢環境の比較と地域環境管理への提言 / 綾の森を世界遺産にする会	100
オオサンショウウオの潜在的な生息適地モデルの構築と保護計画への適用 / (社) 兵庫県自然保護協会	97
<b>(2) 国内活動助成</b>	
国内 IBA (Important Bird Area 重要鳥類生息地) 保護・保全ハンドブック (仮称) の作成 / (財) 日本野鳥の会	112
日本におけるリーフチェック活動 10 周年報告書の作成 / コーラル・ネットワーク	76
堆砂垣と植生保護を組み入れた海岸砂浜保全活動 / (特非) 表浜ネットワーク、堆砂垣・植生グループ	40
愛知県渥美山塊の猛禽類・哺乳類の生息環境を保全するための調査と啓蒙活動 / 渥美自然の会	60
ハッチョウトンボを主とした希少生物の調査と保全活動 / 新山山野草等保護育成会	50
日米カキ礁シンポジウムの開催「三番瀬とチェサピーク湾カキ礁の比較」 / 日米カキ礁シンポジウム実行委員会	105

<b>(3) 国内長期事業助成</b>		
都市圏の希少魚類絶滅回避プロジェクト～多々良川のセボシタビラとチクゼンハゼ／福岡都市圏の生き物を考える会		197
春子谷地の生物多様性と湿原における生物間相互作用／春子谷地生物相調査グループ		200
ササ型林床のブナ林の更新過程に関する研究／ぶなっこ調査隊		148
<b>(4) 海外助成</b>		
コンゴ共和国オザラ国立公園北部における野生生物と人間の共存のための調査研究（継続）／萩原幹子		100
タイにおけるマングローブ植林・保全事業の現状と問題点～生態系復元に向けて／池島耕		68
東アジア・オーストラリア地域渡り経路を利用する水鳥およびシギ・チドリ類の渡りにおけるカムチャツカの重要性／Yuri Gerasimov		112
スマトラ島における現生中大型哺乳類の生息地破壊とその影響に関する調査研究（継続）／Mr. Rizaldi		110
焼畑移動耕作者定住化政策による焼畑短周期化が植物の多様性と遷移に及ぼす影響／Mone Nouansyvang		120
バングラデシュにおける屋敷地の植物の多様性と村人の生活において果たす役割について／Mr. Rashedur Rahman		34
	計 26 件	2,535

別表 6. NACS-J 自然観察指導員講習会

NO	開催日	開催地	会場	共催団体	登録者数
379	6/16-18	新潟県	国民宿舎浅草山荘・浅草山麓エコミュージアム	新潟県	63
380	6/23-25	埼玉県	兵庫県立淡路景観園芸学校	兵庫県立淡路景観園芸学校	60
381	7/15-17	神奈川県	富士ゼロックス 塚原研修所	富士ゼロックス㈱	59
382	9/1-3	長野県	アスティかたおか	自然観察指導員長野県連絡会	65
383	9/16-18	鳥取県	国立公園 大山 とやま旅館	自然観察指導員鳥取連絡会	49
384	9/22-24	静岡県	日本YMCA同盟国際青少年センター東山荘	㈱東芝	60
385	9/29-10/1	群馬県	千葉市高原千葉村	赤谷プロジェクト地域協議会	30
386	10/7-9	岩手県	岩手県立県南青少年の家	自然観察指導員ネットワーク岩手	56
387	10/13-15	佐賀県	佐賀県黒髪少年自然の家	佐賀県、ネイチャー佐賀	30
388	10/20-22	千葉県	国民宿舎清和	千葉県	61
389	10/27-29	北海道	恵庭市青少年研修センター	(社)北海道自然保護協会 北海道自然観察協議会	50
390	11/3-5	福岡県	国立夜須高原青少年自然の家	福岡県自然観察指導員連絡協議会	47
391	11/10-12	大阪府	服部緑地ユースホステル	NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会	46
392	11/18-20	埼玉県	フレンドシップ・ハイツよしみ	埼玉県	58
393	3/16-18	板橋区	板橋区立エコポリスセンター 都立赤塚公園	板橋区立エコポリスセンター	57

別表7. 自然観察指導員フォローアップ研修会

NO	開催日	テーマ	会場	共催団体	参加者数
134	7/22-23	ネイチュア・フィーリング	秋田・ユフォーレ	秋田県生活環境文化部自然保護課	40
135	9/9-10	川での自然観察	神奈川・相模川清流の里	相模原市環境保全部みどり対策課	11
136	9/23-24	ネイチュア・フィーリング	福島・那須甲子少年自然の家	NACS-J主催	31
137	9-23-24	ネイチュア・フィーリング	山梨・八ヶ岳少年自然の家	ノラやまなし	37
138	10/28-29	子どものための環境学習指導	愛知・犬山国際ユースホテル	愛知県	29
139	2/10-11	ネイチュア・フィーリング	鹿児島・国立大隅少年自然の家	くすのき自然館 国立大隅少年自然の家	13
140	3/10-11	雪と氷の自然観察	岩手・沢内銀河高原	自然観察指導員ネットワーク岩手	26

別表8. リアルネイチャーシリーズ

8-1 学生向けリアルネイチャー・セミナー ～ 君に伝えたい自然を守る仕事のこと

開催日	テーマ (開催地/会場)	参加者数
2/10.11.12	自然保護の仕事 (東京/モンベルクラブ渋谷店)	181
2/16	同 (仙台/ベルエア会館)	21

協賛/トヨタ自動車(株)、損保ジャパン環境財団、(株)モンベル

協力/キリンビバレッジ(株)、学生ボランティア 26名

後援/河北新報社 (仙台会場)

8-2 企業人向けリアルネイチャー・セミナー

～ 生物多様性保全が CSR の高評価をもたらす、『CO2削減』の次は『生物多様性』へ

開催日	テーマ	参加者数
9/1	企業が生物多様性保全に取り組むわけ～活動の実例と自己採点方法	40
9/8	市民やNGOと企業とのコラボレーションの必須ポイント～意義、成功例、事例分析	30
9/15	社員の参加意識を高める秘訣～各社の実践例の分析	30
9/22	担当役員からGOを得る、自社に合ったロジック	39
11/29	番外編～学生と企業との対話「ホームページに書けない、環境事業の影の努力」	48

会場/(株)東芝会議室、新宿 NS ビル会議室 協賛/(株)東芝、日経 BP 環境経営フォーラム

協力/キリンビバレッジ(株)

### 8-3 Mom's Lupe (ママズ・ルーペ)

開催日	会場	参加者数
11/24・26	東京世田谷・二子玉川兵庫島	16
12/1・2	東京お台場・お台場海浜公園	19
1/25・27	東京練馬・光が丘公園	26

協賛／花王(株)、(株)みらい環境創造研究所 機材協力／(株)ニコン

### 8-4 AKAYA リアルネイチャー・キャンプ

開催日	タイトル	参加者数
5/13-14	第4回森の科学探検隊	32
5/27-28	新緑の森 日々新たな芽吹き、日々新たな命	7
7/22-23	夏の森、さわやかな風と	9
8/19-20	第1回サニエル自然教室	38
10/28-29	秋の森、実りを分かち合う	8
11/3-4	第5回森の科学探検隊	20
3/3-4	森の雪化粧	18

協賛／(株)ニコン、共同印刷(株) 協力／(株)モンベル、赤谷森林環境保全ふれあいセンター